

【施工時期の平準化】 地域の建設業者による声 (全建・全中建会員企業)

- 全国建設業協会、全国中小建設業協会と連携し、地域建設業者による現場の生の声を聴取 (全国22協会、約180業者)
- 平準化の取組への期待や「見える化」など多くの期待や評価がある一方、更なるデータの深掘りや業界との連携等を望む声が多数

工事の繁閑に伴う弊害の是正を望む声

- ・ 特定時期に発注が集中しすぎ、技術者配置が困難
- ・ 気候の一番良い4～6月に仕事がなく、遊びの状態
- ・ (仕事量の偏りで) 下半期だけで一年分稼いでいる感覚
- ・ 社員や作業員の雇用継続が難しい。資金繰りも大変
- ・ 労務や機材の手配の都合がつかず、工期ギリギリの施工

『見える化』について更なる改善・工夫を望む声

- ・ 市町村は小規模工事も多いので、500万未満の工事も対象にして欲しい
- ・ 受注している工事規模が500万円より小さいため、平準化率に現れていない
- ・ 早期発注等は工事規模による傾向もあり、工事規模別の平準化を進めるべき
- ・ 自治体自ら平準化の実態や対策の必要性を自覚するよう促すことが肝要

発注者側の部局間連携や議会等の理解を望む声

- ・ 首長や議会議員の理解が重要。議会での繰越承認等の円滑化を促すべき
- ・ 財政部局や、発注関連部署の連携が重要で、これらの理解の増進に努めるべき

市町村に対する直接働きかけの強化を望む声

- ・ 人口10万未満の市に対しても、もっと働きかけを行って欲しい
- ・ 公契連で国と自治体が連携し始めたことは大変ありがたい。更に進めてほしい

受注者側の受注環境など、地域の業界との連携を望む声

- ・ 平準化率ありきで、設計や調整等が未了での発注がなされないようにしてほしい
- ・ 平準化率が低い自治体は地元業者の声を聴いてない。業界実態への共感が希薄
- ・ 地域の建設業界との対話を通じて業界の実態を理解して発注して欲しい
- ・ 一律の早期発注でなく、増水期等の事情を考慮し施工しやすい時期の発注を望む

平準化の『見える化』に対する一定の期待や評価

- 自治体の取組を促進するに当たって有効性を評価する声
 - ・ 平準化率の低い団体が努力するようになったと感じる
 - ・ 平準化が発注者責務であるとの自覚の広がりにも効果的
 - ・ 隣接市町村の状況が見え、職員の意識改革につながる
- 建設業者による活用が期待
 - ・ 取組の進捗を指摘できるためありがたい
 - ・ 地元自治体の状況を他市町村と比較でき、実態把握に有効
 - ・ 自治体との意見交換や要望等に活用したい

現場の声を踏まえた取組改善の方向性

- 入契調査で請負金額500万円以下の工事も対象に調査し、見える化に反映
- 「見える化」に当たって、工事規模別の平準化率についても見える化
- 自治体自ら実態を管理し、主体的に作業を行えるよう統一フォーマットを導入

- 総務省・議長会と連携して、市議会議員や町村議会議員等に対して周知
- 農林や病院等、土木部局以外の関係部局との連携推進(先進事例の水平展開)

- 「見える化」を踏まえ、人口10万未満の市に対する個別働きかけを開始
- 統一フォーマットを全国の市町村に普及、市町村ごとの『平準化カルテ』を作成(市町村だけでなく、地元業界とも実態を共有)

- 自治体と地域の建設業団体との意思疎通の促進(受発注者の意見交換等の実施を促進)(国土強靱化等の円滑な施工確保の取組の一環として要請)
(令和3年1月29日、総務省自治行政局長、国土交通省不動産・建設経済局長通知で地方公共団体に要請)